

トヨタ ノア 環境仕様

		6AA-ZWR90W				6AA-ZWR95W		6BA-MZRA90W			6BA-MZRA95W		
車両仕様	車両型式												
	エンジン	総排気量 L 1.797											
駆動装置	駆動方式	前輪駆動方式				電気式4輪駆動方式		前輪駆動方式			4輪駆動方式		
	車両重量	kg	1,610 ～1,650	1,630 ～1,670	1,610 ～1,680	1,610 ～1,710	1,680 ～1,740	1,680 ～1,740	1,580 ～1,610	1,580 ～1,640	1,580 ～1,680	1,650 ～1,700	1,650 ～1,720
燃料消費率	燃料消費率※1 (国土交通省審査値)	km/L	23.6	23.4	23.2	23.0	22.0	21.9	15.3	15.1	15.0	14.4	14.3
	CO ₂ 排出量	g/km	98	99	100	101	106	106	152	154	155	161	162
排出ガス	参考	2030年度燃費基準優良車※2※3											
	認定レベルまたは適合規制 (国土交通省)	平成30年基準排出ガス75%低減レベル※3											
環境情報	認定レベルまたは適合規制値 CO/NMHC/NOx/PM	g/km	1.15/0.025/0.013/—					1.15/0.025/0.013/0.005					
	車外騒音 (加速/定常/近接)※4	dB	70 (規制値) / — / 72				70 (規制値) / — / 71		70 (規制値) / — / 75				
冷媒の種類 (GWP値※5) / 使用量	g	HFO-1234yf (1※6) / 750											
環境負荷物質削減	鉛/水銀	自工会2006年自主目標達成 (1996年比1/10以下※7) / 自工会自主目標達成 (2005年1月以降使用禁止※8)											
	カドミウム/六価クロム	自工会自主目標達成 (2007年1月以降使用禁止) / 自工会自主目標達成 (2008年1月以降使用禁止)											
車室内VOC※9	自工会自主目標達成 (厚生労働省室内濃度指針値※10以下)												
リサイクルしやすい材料を使用した部品	バンパーカバー、インストルメントパネル、その他内装材												
リサイクル関係 樹脂、ゴム部品への材料表示	あり												
リサイクル材の使用	ダッシュサイレンサー												

※1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境 (気象、渋滞等) や運転方法 (急発進、エアコン使用等) に応じて燃料消費率は異なります。 ※2. 省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。 ※3. WLTCモード走行。
 ※4. 平成28年騒音規制。 ※5. GWP: Global Warming Potential (地球温暖化係数) ※6. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下 (対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値) にすることを求められております。 ※7. 1996年乗用車の業界平均1,850g (バッテリーを除く)。 ※8. 交通安全の観点で使用する部品 (ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスプレイランプ、室内蛍光灯) を除く。 ※9. VOC: Volatile Organic Compounds ※10. 厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値。

TOYOTA ENVIRONMENTAL CHALLENGE 2050



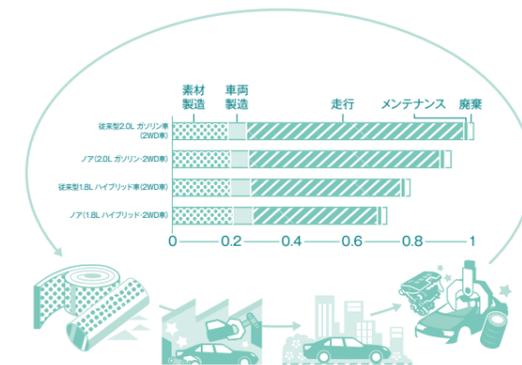
<https://global.toyota/jp/sustainability/esg/challenge2050/>

「人とクルマと自然が共生する社会」を目指して ～トヨタ環境チャレンジ2050～

トヨタは、温室効果ガスに起因する異常気象、生物多様性の喪失、水不足など、深刻化する地球環境の諸問題に対し、これまでも幅広い取り組みを推進してきました。今後もクルマの環境負荷をゼロに近づけるとともに、地球・社会にプラスとなる取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献するための6つのチャレンジ (ゼロへのチャレンジ  と、プラスへのチャレンジ ) を実施していきます。

CO₂ “0” へのチャレンジ ～環境負荷をゼロに近づけるためのトヨタの取り組み～

CO₂ 0 ライフサイクルCO₂ ゼロチャレンジ



トヨタはクルマの一生のCO₂削減をデザインしています

トヨタでは燃費を良くするだけでなく、設計段階から、製造・廃棄・リサイクルにいたるクルマの一生を通して、CO₂排出量を削減するための取り組みを行っています。

トヨタでは、資源採取から廃棄・リサイクルまでの各段階を、クルマが環境に与える要因を定量的に総合評価する手法 (LCA「ライフサイクルアセスメント」: Life Cycle Assessment) で評価し、自動車の生涯走行距離10万km (10年) で計算した場合の結果を指数で示しています。トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関テュフラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。

CO₂ 0 新車CO₂ゼロチャレンジ



燃費の良いクルマを選ぶと、CO₂の削減に協力できます

クルマは、燃費が良くなればなるほど、CO₂の排出量を削減することができます。トヨタでは、燃費を向上させるために、あらゆる部品の軽量化や効率化を推進しています。

CO₂ 0 工場CO₂ゼロチャレンジ



トヨタはエコカーだけでなく、エコ工場にも力を入れています

ノアをつくる工場では、「エネルギーハーフ」を合言葉に、社内アドバイザーを設置し、着実に省エネ活動を進めています。また、従業員一人ひとりが日々知恵を絞り、出し合った“いいアイデア”を積極的に共有することで、環境に負荷をかけないクルマづくりを目指しています。

地球環境へ プラス “+”のチャレンジ

～より良い環境をつくるための
トヨタの取り組み～



緑をつなぐ活動を
ひろげていきます

人と自然が共生する 未来づくりへのチャレンジ

ノアをつくる工場では、自然との共生を目指し、2014年、工場敷地内にビオトープを中心とした施設「ふれ愛パーク」を開設しました。ここでは、絶滅のおそれのある郷土種を守り、外来種を駆除するなどの生物多様性保全の活動や、環境学習などが行われています。失われた自然を復元するために、地域の自然をつなぎ、地域の方々とのつながりを広げ、これからも生物多様性の保全や人づくりの活動を続けていきます。